

2020年2月26日

報道関係各位

株式会社 OKB総研

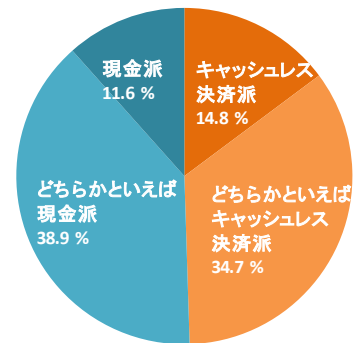
「主婦のキャッシュレス決済利用」アンケート結果について

株式会社OKB総研(大垣市郭町2-25 社長 五藤義徳)は、「主婦のキャッシュレス決済利用」アンケート結果を取りまとめましたのでご紹介します。

《要約》

【キャッシュレス決済派か現金派か】

- 9割以上の主婦がキャッシュレス決済を利用。
- 「キャッシュレス決済派」は49.5%、「現金派」は50.5%とほぼ互角。
※「キャッシュレス決済派」：「キャッシュレス決済派」
+「どちらかといえばキャッシュレス決済派」
「現金派」：「現金派」+「どちらかといえば現金派」



- キャッシュレス決済を利用する理由は「ポイントがたまるから」(82.9%)。現金を利用する理由は「現金だと使いすぎないから」(64.5%)。
- キャッシュレス決済の利用にあたり重視することは「ポイントがよくたまる、還元率が高い」(73.9%)。
- ポイント還元制度をうけて、4割前後の主婦がキャッシュレス決済の手段および金額を増やした、または増やす予定。

【調査概要】

- 調査期間：2019年11月11日～11月15日
- 調査方法：大垣共立銀行本支店（東京・大阪を除く）に来訪した主婦（注）791名にアンケート用紙を配布・回収（無記名方式）
本調査は、「主婦の消費行動に関するアンケート」と同時に実施
- 有効回答者数：777名（有効回答率 98.2%）

4. 回答者属性：

年代	20歳代	5.4%
	30歳代	16.5%
	40歳代	25.6%
	50歳代	30.4%
	60歳以上	22.1%
住所	岐阜県	56.2%
	愛知県	39.9%
	三重県	1.9%
	滋賀県	1.7%
	その他	0.3%
就業形態	専業主婦	11.1%
	正社員・公務員・自営業	46.8%
	パートタイマー	38.9%
	内職・その他	3.2%

- 集計結果表記：数値は四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある。
(注) 本調査における「主婦」とは、既婚の女性で子どもの有無や就業形態は問わない。

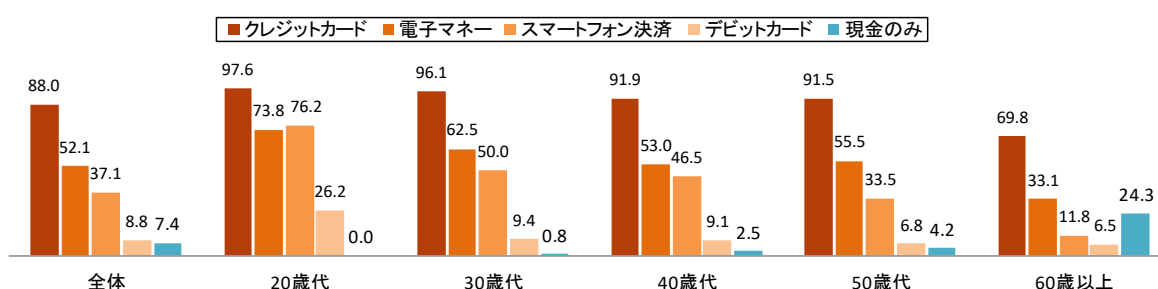
資料配布場所：名古屋金融記者クラブ、大垣市政経済記者クラブ
 【本件に関する問合せ先：OKB総研 調査部 梅木 TEL 052-564-1520】

1. 普段の買い物における決済方法

「過去1年間に普段の買い物で利用した決済方法」について尋ねたところ、キャッシュレス決済で利用率が最も高かったのは「クレジットカード」で88.0%だった。以下、「電子マネー」が52.1%、「スマートフォン決済」が37.1%と続いた。また、決済方法を「現金のみ」とする回答は7.4%だった（図表1）。主婦の9割以上が普段の買い物でキャッシュレス決済を使っていることが分かった。

年代別にみると、60歳以上を除く全ての年代において「クレジットカード」の回答率が9割以上であった。また、「スマートフォン決済」は年代が下がるにつれて回答率が高くなっている。さらに、20歳代では「クレジットカード」「電子マネー」「スマートフォン決済」の回答率が7割以上となっており、キャッシュレス決済の利用に特に積極的である様子がうかがえる。

図表1 普段の買い物における決済方法 ※複数回答、%



2. キャッシュレス決済の利用場所

「キャッシュレス決済の利用場所」について尋ねたところ、「スーパー・ショッピングモール」が76.7%でトップとなり、以下「コンビニ」が56.0%、「ドラッグストア」が55.3%となった（図表2）。これらは「主婦の消費行動に関するアンケート」（2019）における「主婦の買物場所」の上位3項目（スーパー、コンビニエンスストア、ドラッグストア）と対応しており、主婦は普段よく行く場所でキャッシュレス決済を利用していることがうかがえる。

【参考】買物場所の年間平均利用回数（2019）上位3項目

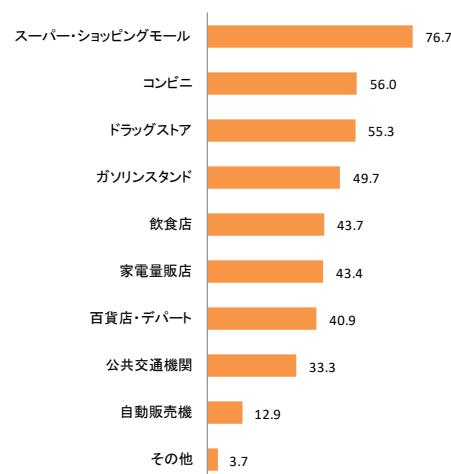
1位	スーパー
2位	コンビニエンスストア
3位	ドラッグストア

3. キャッシュレス決済で支払いをしたもの

「キャッシュレス決済で支払いをしたことがあるもの」について尋ねたところ、「食料品」が82.3%でトップだった。次に「衣料・服飾品」が79.6%、「交通費（旅客運賃、ガソリン代含む）」が61.8%と続いた（図表3）。「キャッシュレス決済の利用場所」の上位4項目（スーパー・ショッピングモール、コンビニ、ドラッグストア、ガソリンスタンド）で主に購入されるものが上位となった。

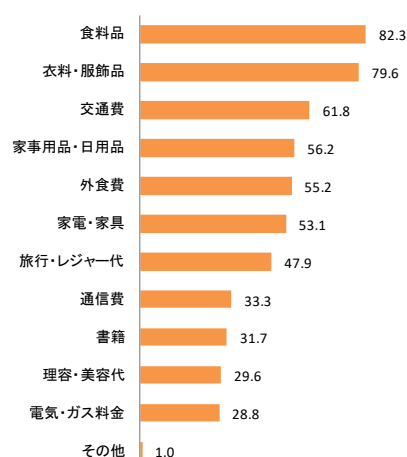
図表2 キャッシュレス決済の利用場所

※複数回答、%



図表3 キャッシュレス決済で支払いをしたもの

※複数回答、%

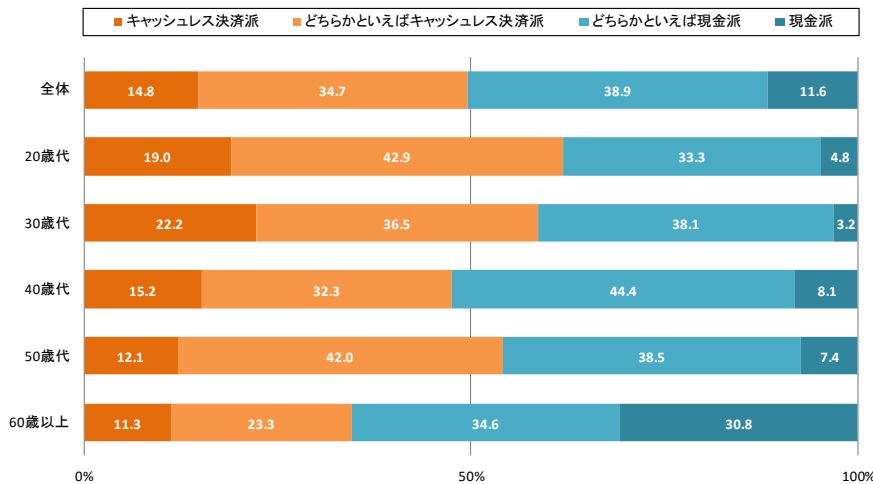


4. キャッシュレス決済派か現金派か

「キャッシュレス決済派か現金派か」について尋ねたところ、キャッシュレス決済派と回答した主婦（「キャッシュレス決済派」＋「どちらかといえばキャッシュレス決済派」）の割合が49.5%、現金派と回答した主婦（「現金派」＋「どちらかといえば現金派」）の割合が50.5%となり、両者はほぼ互角であった（図表4）。

年代別にみると、キャッシュレス決済派と回答した主婦の割合が最も高いのは20歳代、現金派と回答した主婦の割合が最も高いのは60歳以上となっている。

図表4 キャッシュレス決済派か現金派か

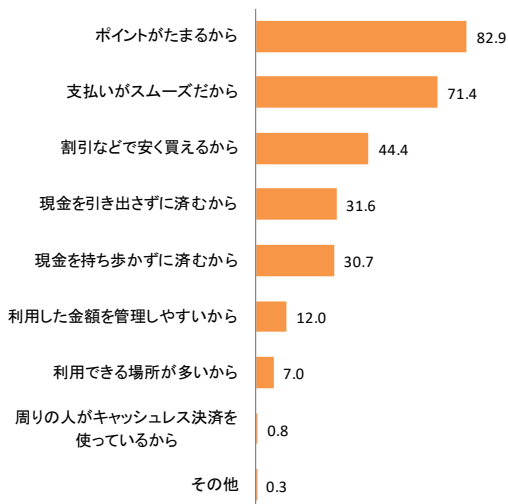


5. キャッシュレス決済を利用する理由／現金を利用する理由

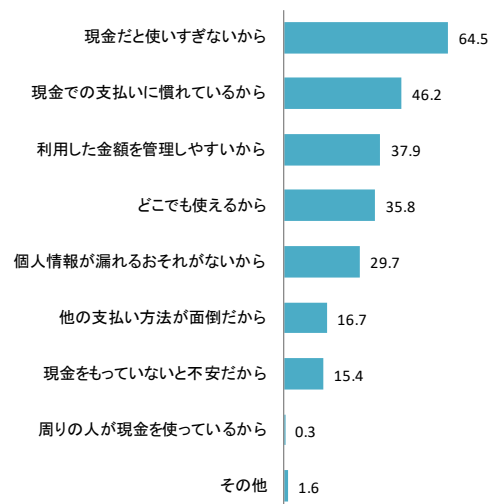
キャッシュレス決済派と回答した主婦に「キャッシュレス決済を利用する理由」を尋ねたところ、「ポイントがたまるから」が82.9%と最も高く、次いで「支払いがスムーズだから」が71.4%となった（図表5）。キャッシュレス決済派の主婦は、ポイント付与などのお得感や支払い時の簡便性からキャッシュレス決済を利用していることが分かった。

現金派と回答した主婦に「現金を利用する理由」を尋ねたところ、「現金だと使いすぎないから」が64.5%と最も高く、次いで「現金での支払いに慣れているから」が46.2%となった（図表6）。現金派の主婦は、使いすぎへの懸念や現金支払いの慣れから現金を利用していることが分かった。

図表5 キャッシュレス決済を利用する理由 ※複数回答、%



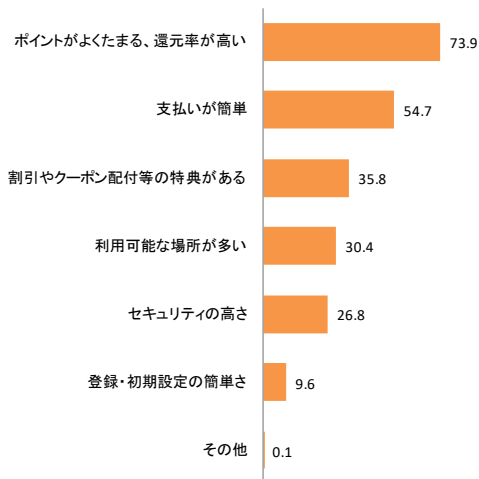
図表6 現金を利用する理由 ※複数回答、%



6. キャッシュレス決済の利用にあたり重視すること

「キャッシュレス決済の利用にあたり重視すること」について尋ねたところ、「ポイントがよくたまる、還元率が高い」がトップで73.9%だった。以下、「支払いが簡単」が54.7%、「割引やクーポン配付等の特典がある」が35.8%と続いた（図表7）。

図表7 キャッシュレス決済の利用にあたり重視すること
※複数回答、%



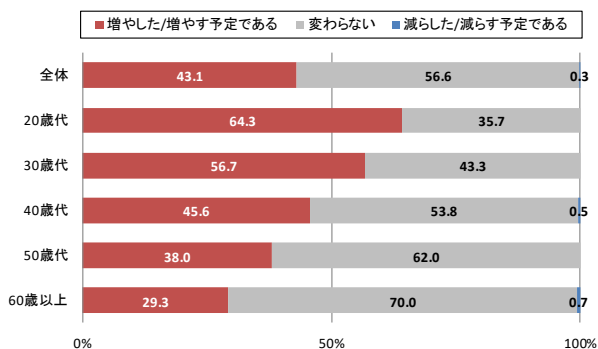
7. ポイント還元制度をうけてのキャッシュレス決済利用

「消費税増税に伴うポイント還元制度をうけてのキャッシュレス決済利用」について尋ねたところ、「キャッシュレス決済の利用手段」については、「増やした/増やす予定である」が43.1%、「変わらない」が56.6%、「減らした/減らす予定である」が0.3%となった（図表8）。「キャッシュレス決済の利用金額」については、「増やした/増やす予定である」が37.2%、「変わらない」が61.8%、「減らした/減らす予定である」が1.0%となった（図表9）。ポイント還元制度をうけて、キャッシュレス決済の手段および金額を増やした、または増やす予定の主婦は4割前後であることが分かった。

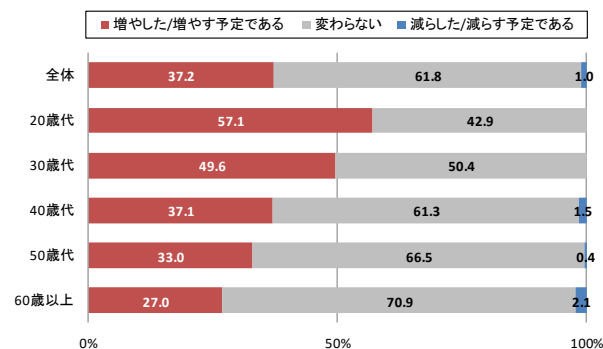
年代別にみると、手段と金額いずれにおいても年齢層が低くなるにつれて「増やした/増やす予定である」の回答率が高くなっており、主に若い年代の主婦がポイント還元制度によってキャッシュレス決済の手段や金額を増やす傾向にあることが分かる。

キャッシュレス決済派と現金派別にみると、手段と金額いずれにおいてもキャッシュレス決済派に傾くほど「増やした/増やす予定である」の回答率が高くなっている。また、「どちらかといえば現金派」であっても、3割程度はキャッシュレス決済の手段や金額を「増やした/増やす予定である」ことが分かった（図表10・11）。

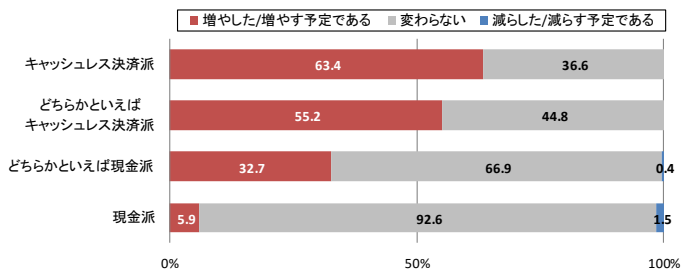
図表8 キャッシュレス決済 利用手段



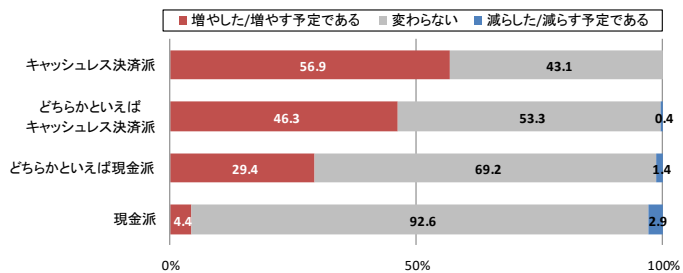
図表9 キャッシュレス決済 利用金額



図表10 キャッシュレス決済 利用手段
(キャッシュレス決済派・現金派別)



図表11 キャッシュレス決済 利用金額
(キャッシュレス決済派・現金派別)



以上